

## 平成29年度 練馬区立石神井西中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校

校長 松丸晴美

## 1 自己評価結果

◇本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒21項目、保護者22項目、教職員26項目、地域関係者9項目について、(ア：そう思う、イ：ややそう思う、ウ：あまりそう思わない、エ：そう思わない)の4段階で12月～1月に評価を行った。

結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し

- ・80%以上の項目を評価A(目標が充分達成できている)
- ・80%未満55%以上の項目を評価B(概ね達成できている)
- ・55%未満40%以上の項目を評価C(達成がやや不十分である)
- ・40%未満の項目を評価D(達成が不十分である)として表記した。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいくことを確認した。なお、昨年度と質問や評価が変わっている場合は昨年度の評価を( )内に記載した。

評価項目	生徒	保護者	教職員	地域
1. 相手の身になり、思いやりの気持ちをもって生活している。	A	A	A(C)	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教職員の肯定的評価は昨年度より大きく上昇したが、生徒・保護者が「思う」の割合が多いのに比べ教職員は「やや思う」の割合が多い。いじめの指導や件数の実態から、された側とやった側の意識が親子とも差があると考えられる。				
2. ルールやマナーを守り、規律ある学校生活を送っている。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・四者とも90%前後が肯定的評価であり、規律ある学校生活ができている。特に校外学習や宿泊行事などで、昨年度に比較し生徒の規範意識が大きく改善している。				
3. 地域などで声を出してしっかりあいさつができています。	A	A	B(D)	A(B)
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教職員の評価がDからBへと、また地域からの評価も大きく改善した。生徒も挨拶について意識して行うように変容している。生徒会や部活動を通してたえず呼びかけ改善を心掛けていく。地域からは来校時の印象は良いと評価された。				
4. 登校時にはバッチを着用し、始業式に着る式服など、場に応じた服装を考えてきちんとした着こなしができている。	A	A	B(D)	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教職員の肯定的評価がDからBへと大きく上昇した。式服の着こなしを中心に生徒の意識も向上し課題が大きく改善されている。バッチの着用は生徒からも呼びかけて着用率を上げるようにしている。私服であるため、日々生徒自身が意識を高く持ってバッチをつけることが必要となる。引き続き新入生のうちから保護者に協力を呼びかけ、家庭と連携を図りながら改善していく。				

5. 場に応じた言葉遣いができている。	A		A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・生徒、教職員ともに90%近い肯定的評価が出ている。しかし、1年生は小学校の延長で、教員や上級生（目上の人）への言葉遣いがきちんと出来ない（友達言葉になる）場面がみられる。その場で、やり直しをさせるなどして適切な言葉遣いができるように指導を継続していく。				
6. 時間を守ること（守ろうとしている。守ることができている。）	A		A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・授業開始時刻や朝礼開始時刻を守るよう指導し成果があがっている。冬場は朝の時間が遅れがちなので、時機を逃さず声かけしている。また、教員はチャイム前に教室にいて、チャイムとともに授業が開始できるようにしている。宿泊行事においても時間前に行動する習慣がしっかり身に付いている。				
7. 話を聞く態度を素早く整えること。（整えようとしている。整えることができている。）	B		B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・全校朝礼や避難訓練など、学校全体では、生徒一人一人が自覚して行動し、非常に良い状態にある。しかし、2年生で話を聞く態度にやや課題があったので、宿泊行事では生活目標の中心に据え指導した結果、生徒の意識も高まり、その後の学校生活においては改善された様子を実感できた。				
8. 家庭学習に取り組み、学力を向上させようとしている。	B (C)	B (C)	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・生徒、保護者で昨年度より肯定的評価の割合が高くなった。家庭学習の習慣は学年によって差があり、特に1年生で定着していない状況が散見される。各教科で、定期的に宿題を出す、放課後のステップアップ教室で学習の手助けをすることなどで改善を図っていく。				
9. 運動会や合唱コンクールなどの学校行事は、充実している。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・生徒、保護者、教職員ともに90%前後、地域は100%の肯定的評価であった。しかし、少数ではあるが行事の内容や日程等について否定的意見もあるので、各行事の目的を明示し保護者には理解を求めながら、生徒にとって安全で、教育効果の高い学校行事になるよう次年度も工夫をしながら取り組ませる。				
10. 各教科の評価・評定は適切に行われている。	A	B (A)		
<評価委員会等の分析・改善策等> ・保護者の肯定的評価の割合が減少した。年度当初に評価に関する校内研修を行い、適切な評価・評定に努めるとともに、次年度も、年度当初の保護者会や進路説明会、三者面談等で、評価規準や評定決定の方法等について丁寧に説明する。				
11. 安全指導や防災訓練など、お子さんの安全に関する指導を適切にしている。	A	A		A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・毎月の避難訓練を火災、地震、不審者、Jアラートなどの多様な形態、時間帯も授業中や放課後など様々なケースを想定して行っている。生徒の訓練への参加態度は非常に良い。				
12. 部活動の活動状況は充実している。	A	A		A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・生徒・保護者ともに肯定的評価が高いが個々に相談を受けるケースもある。保護者の話を傾聴し可能なものについては改善していく。外部指導員の活用も図っているが協力が得られる部ばかりではなく、複数顧問をとるなどして顧問の負担軽減を図っているが、保護者や生徒の部活動に寄せる期待は大きく、部活				

動の在り方については、働き方改革を一步進めるためにも行政等へのさらなる働きかけが必要である。				
13. 学校は、学校だより・学年だよりやホームページなどで学校の様子を適切に発信している。		A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・学校だよりや学年だよりは定期的に発行している。ホームページも通常一日400件程度のヒットがある。宿泊行事は保護者の関心が特に高く、約1000件のヒットが見られる。				
14. ルールやマナーを守らせる指導を適切に行い、生徒が誤ったことをしたときは家庭と連携し、きちんと指導をしている。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員は緊密に保護者と連絡をとっている。問題があったときだけでなく、日頃の様子も伝えるようにすることで、保護者との信頼関係がより深まるので、実践していく。				
15. 生徒、教職員、保護者、地域関係者は70周年記念行事への取組を通して、学校の歴史について振り返り、母校・地域の学校としての愛校心を育むことができた。	A	B	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・保護者には周年行事に関心がない方もいたのか肯定的評価がやや低かった。朝礼で学校の歴史に触れた講話をしたり、シンボルマーク等を募集したり、校内展示や記念式典でのプレゼンテーション発表などをさせるなど生徒参加型の周年行事を目指したことにより、生徒・教職員の肯定的評価は8割を超えた。				
16. 先生やスクールカウンセラー、心のふれあい相談員などは親身になって相談にのっている。	B (A)	A		
<評価委員会等の分析・改善策等> ・保護者の肯定的評価は昨年より向上したが、生徒はやや低くなった。教師の対話力を磨き、生徒一人一人への個別指導を疎かにしないよう心がけて指導に当たっていく。				
17. 1年生の職業調べ、2年生の職場体験、3年生の上級学校訪問、マナー教室、卒業生のお話を聞く会、高校の先生のお話を聞く会は、働くことや進路について考える学習となっている。	A	A		
<評価委員会等の分析・改善策等> ・昨年度同様、肯定的評価が高く充実した学習活動が出来ている。次年度も継続する。				
18. 学校では、オリンピックやパラリンピックについての学習を進めています。その学習によって、オリンピックやパラリンピックに対する興味・関心が高まっている。	B	B		
<評価委員会等の分析・改善策等> ・昨年度から変わらずB評価である。生徒や保護者に、オリンピック・パラリンピック学習はスポーツだけではないことを強調しさらに理解を深めていく。				
19. 留学生のお話を聞く会や校外学習・修学旅行での外国人インタビュー、SDGs講演、服のチカラプロジェクトなどの国際理解教育の取組を通して、世界に目を向け国際社会への興味・関心が高まっている。	B	B		

<評価委員会等の分析・改善策等> ・昨年度と変わらず B 評価であった。単発的な行事としてではなく、事前・事後指導をさらに丁寧に進め、オリパラ学習ノートを活用し、記録と記憶に残る活動にしていく。全国学力・学習状況調査（3年生で実施）の結果を見ると、国や都に比べ、生徒の海外や国際社会に関する興味・関心はかなり高く、将来の国際社会での活動意欲も高まっていることから、学校での取組に一定の成果があがっていると考え。				
20. 茶道（3年）、和楽器（2・3年）、着付け（2年）、落語（2年）、弓道（2年）、切り絵（1年）、和菓子作り（1年）などの日本文化体験学習を通して、日本の伝統文化に対する興味・関心が高まっている。	A	B	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・JET 青年とともに活動し日本の伝統文化に対する興味・関心が高まっただけでなく、外国人に対して発信しようという気持ちが醸成されている。都の指定は終了したが学校独自で活動を継続していく。				
21. わが子や地域の子どもたちをなるべくほめるようにしている。		B		A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・学校評議員から入れてほしいと意見があった質問項目であったが、昨年度と変わらない評価であった。引き続き保護者へ啓発を続けていく。				

## 2 学校経営計画（基本方針及び今年度の重点目標）に対する自己評価

◇今年度の学校経営計画に示した7項目の基本方針および今年度の取組の重点に対する職務行動や生徒の自己評価や観察による達成状況を各項目（ア：十分に達成できた イ：概ね達成できた ウ：あまり達成できなかった エ：全く達成できなかった）の4段階で、12月に、教職員が評価した。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し下記のとおり A～D で評価した。

- ・80%以上の項目を評価 A（目標が充分達成できている）
- ・80%未満55%以上の項目を評価 B（概ね達成できている）
- ・55%未満40%以上の項目を評価 C（達成がやや不十分である）
- ・40%未満の項目を評価 D（達成が不十分である）

評価結果 C・D の項目については、達成状況が不十分として、次年度は、各分掌主任・学年主任、特別委員会を中心に具体的な改善策を策定させ、取り組んでいく。なお、昨年度と標語が変わっている項目は、昨年度の評価を（ ）内に記載した。

学校経営の基本となる7本の柱（グランドデザイン）		
A. 豊かな心の醸成	E. 心身の健康と体力の増進	
B. 確かな学力の定着・向上	F. 国際人となる資質の育成	
C. 自立に向けたキャリアの教育の推進	G. 安全・安心で、保護者・地域に信頼される学校づくり	
D. 自己指導揚力の伸長		
主な柱	項 目	評 価
A	①思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高める	A (B)
	②ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てる	A
	③場に応じた言葉遣いや返事ができる	A (B)
C	◇3項目とも肯定的評価が高くなった。教職員の共通理解と日々の指導の積み重ねが生徒の変容につながった。思いやりの心や規範意識については少数ではあるがまだ不十分な生徒いる。今後も家庭の理解を図りながら人権感覚を磨く。	
B	①基礎・基本の確実な定着と習熟度の高い生徒に対する個に応じた	B (A)

	指導を行う	
	②思考力・判断力・表現力を高める授業を行う	B
	③家庭学習習慣を形成する（テスト前の学習に重点）	B (A)
	◇達成度は学年によってばらつきがあるので生徒の実態にあった指導を心がける。思考力・判断力・表現力を高める授業はかなり意識して実践するようになっている。家庭学習は個人差が大きい。地域未来塾を英語にも拡大して行う。	
C	① あいさつができる（声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼）	B (C)
	②バッチを毎日着用する	B
	③式服・体育着について、きちんとした着こなしができる	A (B)
	④時間を守る（授業・朝礼・集合）	A (B)
	⑤話を聞く態度を素早く整える（私語をせず待つ。無言で話を聞く）	B
D	◇長年の課題であった基本的生活習慣の形成が、教職員の共通理解・共通実践のもとで行われ、生徒の変容・課題改善に成果があがった。来校者にも挨拶するよう今後も指導するとともに、生徒の委員会活動をこれまで以上に活発化させ、自治の力を伸長する。また、教員自らが垂範率先を心がける。	
E	①オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成する。	A
	②オリンピック・パラリンピック学習を推進し、障がい者スポーツの体験・理解を深める。	B
	③オリンピック・パラリンピック学習を推進し、体力の向上を図る。	B
	④オリンピック・パラリンピック学習を推進し、実践的な英語活用能力を向上させる。	C
	◇夢未来プロジェクト、アワード校、パラリンピック応援校に応募し、取組内容を学校内外に発信し、次年度も教育目標の重点として実施していく。	
D	② 徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長する。	A
	②青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する	B
F	◇ボランティアマインドの醸成を中心に据え、生徒会を中心に活動してきたことが定着してきた。次年度は、さらに意識して取り組ませる。	
G 教職員	①ホームページや学年だより等による広報を適切に行う	A
	② 域の祭礼等のパトロールに参加する	A
	③ 開校70周年事業の円滑な実施	A
	◇ホームページや学校だよりに目を通す地域や保護者が多くなっていることを意識し、今後も様々な発信をしていく。地域との結びつきも強くなり、学校の教育活動への地域人材活用や防災訓練等を含めさらに関係を深めていく。	
G 教職員	①サービス事故の徹底防止と個人情報の管理徹底	A
	②学習指導要領に基づく適切な各教科の授業年間指導計画の作成と実施。教科主任による単元毎の時数・進捗状況の確認・報告を行う	A
	③生徒理解と適切な支援	A
	④「道徳」の研究を推進する	A
	⑤小中一貫教育研究グループの取組を通して小学校への理解を深め、小中9年間の接続を意識した生徒指導・学習指導を実施する	B
	⑥自ら研鑽し、専門性の向上・教師としての資質向上を図る	B

◇ライフ・ワーク・バランスを意識し、校務の見直しを図ると共に、効率よく職務を行うよう指導していく。また、「特別の教科 道徳」にかかわる校内研究・実践を推し進める。小中一貫教育については、3年間実施してきた内容を見直しながら、小中4校で連携を図って実践していく。
--

### 3 評価結果の公表等

- ◇評価結果については、3月19日（月）、20日（火）に保護者会を開き、学校だより（3月号）を資料として、学校全体評価結果と考察を校長から、各学年の評価結果の概要と考察を学年主任が口頭で説明する。
- ◇ホームページで、学校評価結果（3月学校だより）を公開する。
- ◇地域関係者には、2月の学校評議員会で事前に送付しておいた結果についての説明を行い、意見を聴取した。加えて3月学校だよりの配付をもって公表に代えている。

### 4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

- ◇今年度の最重点目標であった「思いやりの心」「相手の身になって考え行動できる力」の育成については、特定の生徒に課題が残るものの全体として一定の成果があがった。引き続き、保護者を啓発しながら道徳授業と関連付け、全教育活動を通して育成していく。
- ◇時間や挨拶、服装などの基本的な生活習慣の形成はほぼ満足な状態になった。次年度も気を抜かず、生徒の自覚を促し保護者の協力を得ながら良い状態が維持できるよう指導していく。
- ◇集合や話を聞く態度、場に応じた言葉使いなどは、小学校との違いが一番大きいところでもある。入学当初にしっかり指導していくことでさらに改善していく。
- ◇新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善については研修を通して各教員の理解が進んだ。それぞれの授業の中で話し合い活動などをさらに工夫しながら、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばしていくことを心掛けさせ生徒授業アンケートで検証する。また、技術科の授業で身に付けたパワーポイントや菊の栽培技能を理科や総合的な学習の時間で活用し、相互に教育効果が高まったので、次年度はさらに教科横断的な指導を意識して実施していく。
- ◇家庭学習の取組については、昨年度より改善しているが1年生に課題が見られた。次年度は、入学後の早い段階から適切な宿題と課題を提示し、丁寧な点検指導を行い家庭学習習慣の形成を図っていく。また学習習慣が身に付いていない生徒には、定期考査前の補充教室や放課後のステップアップ教室（地域未来塾）等への参加を個別に促し、支援していく。
- ◇評価・評定については、毎年、年度当初に研修を行い、適正な評価の実現に努めているが、塾やペーパーテストの得点に比重を置いた評価観にとらわれている保護者もいるので、三者面談などの機会に、個別に資料を提示しながらさらに丁寧な説明を心掛けていく。
- ◇オリンピック・パラリンピック教育については、次年度も、学校教育目標の重点であるボランティアマインドの醸成と国際理解を中心に取り組んでいく。単位時間の取組に留まらず、事前・事後の指導と合わせて推進していく。
- ◇オリンピック・パラリンピック学習を通じた実践的な英語活用能力の向上には課題がある。都や区中研の英語研修への参加を促し、研修内容を相互に活用することによって、授業の質の向上を図っていく。次年度は、英語検定試験の導入ならびに東京グローバルゲートウェイを活用した英語型校外学習（2年生）を行い、改善する方策の一助としたい。
- ◇次年度は、練馬区教育課題研究指定校2年目となるので、今年度研究・実践を進めてきた内容を踏まえ、ローテンション授業と石西中オリジナルの道徳ノートを使用した評価の在り方を柱として研究・実践を深め、成果と課題を広く公表していく。